

令和2年(2020年)4月6日

蘇南高等学校・前期始業式校長講話
「ブリコラージュをしながら感染症パンデミックに立ち向かおう」

小川幸司

【はじめに】

新型コロナウイルス感染症の世界的パンデミックが起こっています。長野県の県立高校は3月4日から一斉の臨時休校に入っていました。今日、ここに、ひと月ぶりに学校生活を再開します。

まず、あらためて校長として皆さんに一言。校長室は誰でもウェルカムです。昼休み、放課後などに、自分はこんなことを考えているとか、校長講話でこんな感想を持ったとか、あるいはこんなことに困っているとか、「対話」をしにきてください。

【人類が経験したことのないパンデミック】

さて、人類は、これまでもペスト、コレラ、新型インフルエンザなど、さまざまな感染症の世界的流行に苦しめられてきました。しかし、今、私たちが直面しているのは、これまでの感染症と全く異なる、経験したことのない未曾有の事態です。

第一に、人や資金、商品が日常的に大量に国境を越えて動く、グローバル化の時代ゆえに、感染症は全世界に爆発的に流行しています。さらにそれを止めようとして国境を閉ざすことが、今度は私たちの“生活の危機”につながっています。皆さんのことと言えば、皆さんの健康を守るために一斉休業をするならば、そのことによって皆さんは学業・生徒会・部活動において自分が未来に向かって成長する大切な機会を失ってしまい、別の意味で「傷ついてしまう」こととなります。

第二に、実は毒性の強いウイルスというのは寄生する生命を殺すことによって自らも死んでしまうことになるのですが、今回のウイルスは多くの患者を無症状にすることによって自らを生かし、感染を広めるといふ、恐ろしい特徴をもっています。あるとき、感染者の爆発的増加(オーバーシュート)がおこり、医療崩壊が起こり、死者が激増しているわけです。

【パンデミックのなかで「日常生活」を守る】

全世界の人々がウイルスの封じ込めに奮闘しているわけですが、残念ながらこの流行は、しばらく続くと予想せざるを得ません。そうだとすれば、私たちは物事の考え方を「転換」していく必要があります。

私たちの身近でオーバーシュートがまだ起こっていないのならば、コロナウイルスが流行している事態と「共存」して、最大限の感染防止の努力をしながら、“自分の「日常生活」を維持していく”生き方への転換です。そしてその「日常生活」のなかでオーバーシュートに備えていくのです。

【レヴィ=ストロース『野生の思考』を読む】

今日は、そのような考え方の「転換」をするにあたって、私が共感する哲学を皆さんに紹介したい。これが今回の私の話のテーマです。フランスの哲学者のレヴィ=ストロース(1908~2009)の『野生の思考』という本です。とても厚く難しい内容の本なのですが、私がかみくだいて説明してみますね。

レヴィ=ストロースは、ヨーロッパやアメリカの文明生活に比べて、野蛮で遅れていると考えられてきたアフリカやオセアニアの部族の人々の“ものの考え方”の特徴を分析しています。彼は、こう言います。私たちの発想は、理性にもとづき科学的に思考すること(=「エンジニ

アリング)を大切にすけれども、未開の部族の人々は、新たな事態に直面したときに、自分の今、持っている知識と経験とを組み合わせ、間に合わせ的に乗り切ること(=「ブリコラージュ」)を目指す、と。

私がレヴィ=ストロースを素晴らしいと思うのは、彼が、人間にはエンジニアリングも大切だが、文明生活のなかでは消えてしまっている、ブリコラージュも、とても大切だと見ているからです。

【エンジニアリングとブリコラージュの両方が大切】

おそろしい感染症に直面している今に、再び視点を戻しましょう。

この事態が早く収まってほしいと願いながら、政府の専門家会議の見解を受けて行動するのが、「エンジニアリング」です。それに対して、この事態のなかで自分の日常生活をどう守っていくか……たとえば、将来の夢に向かっての勉学をどう進めるか、大好きな部活動をどう続けていくか、生徒会の行事をこの現実を前にしてどう工夫して実現していくか、会いたい人と対面し且つその人(及び自分・自分の家族)を守るためにどう行動するか……こうしたことを、日々、自分の知識と経験とを総動員しながら、自分なりに精一杯考えて行動するのが、「ブリコラージュ」です。

エンジニアリングももちろん大事ですが、専門家の意見だけに依存すると自分の主体性がなくなります。その結果、周囲に流されるだけの群衆になる。なんとなく自粛して…、飽きてきたので何となく人ごみに遊びに行き…、何となくデマに右往左往し…、何となく感染にのみこまれていく。これではいけないと思いませんか。

今こそ、皆さんひとりひとりの“間に合わせ的に乗り切ろう”とする「ブリコラージュ」の力を発揮するときです。ブリコラージュとはフランス語で、破れた布を縫い直す「ブリコレ」と複数の写真などをつなぎあわせて1枚の絵にする「コラージュ」という二つの言葉を合成した造語です。

【「開拓者精神」とブリコラージュ】

皆さんは、蘇南高校で繰り返し、「開拓者精神」が本校のモットーだと聞いてきたはずですが。「開拓者」の「精神」って、どんなものですか。

私は、こう考えるのです。開拓とは、自分や大切な人の未来のために、新しい土地を創ることでしょう。ならば、「開拓者精神」とは、今はまだ見えない未来に、自分が大切だと思う人(自分自身も含みます)がどうしたら幸せになれるかを想像して、今の自分の持てる力を精一杯使って努力することなのではないでしょうか。

繰り返しますが、見えない未来のために、今の自分の持てる力—知識・経験・体力・やさしさ—を精一杯使うことです。

これって、ブリコラージュでしょう？

【自分を守り、人を守る】

コロナウイルス感染症の事態が、日々、深刻さを増しているので、最後にもうひとつ付け加えさせてください。

「自分を守り、人を守ってほしい」という呼びかけをしたいのです。今回の感染症がおそろしいのは、自分が感染することが、すぐさま自分が他の人を感染させる立場になるからです。たとえ、自分が軽症で済んだとしても、例えば友人の大切なお母さんが基礎疾患をもっていて、自分から友人に感染させてしまったことで、お母さんが亡くなってしまうということが、大いにありうるわけです。

だからこそ、自分を守ってください。マスクを着用してください。昼休みには必ず手洗いをしてください。休日に人ごみに行かないでください。

そして、人を守ってください。朝、必ず検温をして、発熱や咳の症状があったら、学校に連絡をして休んでください。体調が思わしくない友人がいたら、そっと「保健室に行ったらどう」と声を優しくかけてあげてください。今のような非常事態においては、社会全体が他者に攻撃的になりがちです。今回のことで誰かを攻撃したり、からかったりしないよう、是非、蘇南高等学校の生徒の皆さんは、人への優しさを守り抜いてください。

【ブリコラージュしていこう！】

今日の私の話の結論です。

大きな困難を前にたじろがないようにしよう。

自分の力で精一杯考えて、友人や先生方と議論し合い、考えを寄せ集めながら前に進み…、見えない未来を開拓していこうではありませんか。そのときに、コロナウイルスのために「あれができない、これもできない」という蘇南高校の生活が、困難に満ちた今の時代だからこそ「あれができた、これができた」という生活に、逆転できるはずなのです。

自分が何かの新しい工夫をしたとき、これって「ブリコラージュ」じゃない？って、振り返られるような生活を、皆さんが創ってくれることを期待します。